

第4章

都市観光のまち 川崎市を目指すために

第4章目次

1. 情報に関する課題を克服するために	63
2. 都市観光を振興するための組織体制について	63
(1) 自治体の観光振興に対する姿勢	
(2) 観光関連の人員配置と事業予算の相関関係	
(3) 組織に関する提言	
○ 行政内部の横断的な組織の確立	
○ 行政内における観光振興プロジェクトチームの新設	
○ (財)川崎市文化財団機能の強化	
○ 集客戦略研究部門の設立	
○ 行政・観光協会と民間業界、市民、NPO、大学等が一体となった体制を検討整備すること	
3. 都市観光のまち 川崎市を目指すために	70
(1) 見どころマップの作成	
(2) 季節のお楽しみカレンダーの作成	
(3) バスによる交通アクセスの補完	
ア 川崎区の場合～トロリーバスの使用	
イ 多摩区の場合～コミュニティバスの使用	
(4) 全市的な観光情報の集約・発信について～観光政策をコーディネート～	
① 情報発信の手法（情報の見せ方等）	
○ 職員一人一人が広告塔に	
○ 情報収集整理の組織強化	
○ ロゴマーク創設	
○ 市バスによるPR	
② 市民に親しまれる観光プランの提供	
○ 文化とスポーツのまちかわさき	
○ ターゲット向けに応じたプラン	
③ かわさきならではのウリをアピールする	
○ 名産品を活用	
4. エコツーリズムに基づいた都市観光振興の基本理念とそれぞれの提案との関係を整理する	75
・具体的な提案を実現するために （行政 観光協会の組織体制） （行政 観光協会 市民 観光客 関係団体の相関図）	
・都市観光企画書	

○が具体的提案

第4章 都市観光のまち 川崎市を目指すために

ここまでの調査・研究の結果から、現状では川崎市の都市観光は、本研究が都市観光の理想として述べたエコツーリズムの理念を十分に実現していないといえる。しかし、同時に第3章の事例研究における地域資源の調査等により、多くの観光資源となりうる地域資源が存在していることが明らかになった。こうした脈々と存在する川崎市の都市観光の「芽」をどのように育て、伸ばしていけば良いのか。そして、エコツーリズムの理念を実現するために、まずどのようなことから取り組むべきなのか。本報告書の最後となるこの第4章では、第3章で挙げた課題を解決する方策について述べるとともに、あわせて川崎市の都市観光を振興するためのいくつかの提案を示すことにより、本研究の提言としたい。

1. 情報に関する課題を克服するために

第3章の事例研究の結果、私たちはいくつかの克服すべき課題を挙げた。そのうち、大きな課題の一つとして「情報」に関する課題がある。観光資源に関する情報をいかに集約し、その情報、すなわち観光資源をだれに、どのように見せていくかという課題である。そして、もう一つの大きな課題が「観光推進体制」である。観光資源を生かすためにはどうすれば良いのか、効果的な情報発信の手法等、「何をすべきか」ということについては工夫一つで改善される余地がある問題である。観光資源の掘り起こしや効果的な情報の集約・発信をおこなうためには行政内部の連携はもちろんのこと観光協会や民間との連携はこれまで以上に必要となる。このような組織として観光振興や観光情報を提供する体制が整備されなければ、本研究会における提案も単なるアイデアの域を出ないことになりかねない。そこで、ここでは、はじめに「誰がそれをするのか」といういわゆる観光推進体制についてあらためて検証し、望ましい体制のあり方を考えていきたい。

2. 都市観光を振興するための組織体制について

各区の調査を通じて、川崎市の都市観光における基本的な課題は「情報」という言葉で集約されることが明らかになったが、それらの課題は

「何を」	=	「魅力的な観光資源の掘り起こし」
「誰に」	=	「ターゲット・ニーズの調査」
「どのようにして」	=	「情報発信の手法」

という問題であることがわかった。そしてそれらの課題を解決するためには、川崎市の都市観光の推進を「誰が」担っていくか、つまり「都市観光を振興するための組織体制」の問題に行き着いた。ここではその問題の所在と解決のための提案を行いたい。

(1) 自治体の観光振興に対する姿勢

各自治体の観光振興に対する認識と観光振興の現状を表す一つの指標が、観光振興施策に対する予算額や観光担当職員の配置状況といった金銭的、人的な資源の投入状況である。具体的に観光振興に関連する観光振興担当部署の予算項目を分類すると、

- 観光施設や観光資源の創出・整備・管理・運営（ハード関連）
- イベントの開催・イベント開催に対する補助金
- 観光情報のPR
- 観光振興関連団体への補助金
- 観光関連調査
- 観光振興に対する啓発活動
- 情報交換の場の運営

等に集約される。これらについて各自治体の観光推進部署の関連予算措置を比較した。観光推進にかかわる人員は、行政職員以外に観光協会や観光コンベンションセンター等の事務員もいることが多いため、行政組織内の観光担当職員の比較だけでは、各自治体の取組みの厚さについて一概には論じることができないが、川崎市に現状を把握する上での指標とはなりうるといえる。

観光振興を重要な施策のひとつとして挙げている自治体は多く(資料編 129P 「10. 政令市の都市観光に対する考え方」、同 130P 「11. 政令指定都市の観光振興基本計画に関する調査」を参照)、観光担当部署でハード整備に多額の予算を計上している自治体もあり(札幌 大阪 神戸 北九州 福岡)、まちづくりにおける重要な視点として、観光の視点を入れて整備している点では観光推進における先進性が感じられる。観光以外の主要な産業がない都市や産業構造の転換により従来からある産業を活かしつつ、観光資源として整備している都市があり、いずれの都市も観光を「主要な産業」として位置づけていることがわかる。

(2) 観光関連の人員配置と事業予算の相関関係

川崎市は人口が約128万人(平成13年1月1日時点)であり、13大都市の比較では第9位であるが、観光推進担当部署の職員数は4名(観光協会連合会の職員は2名)であり、13大都市の中では最下位となる。観光推進職員が10人以下の都市は、川崎市を入れて4都市であるが川崎市以外は川崎市の倍にあたる8名以上の職員を配置している。これを職員一人あたりの市民の人口で換算すると、川崎市(320千人)は東京都(345千人)についで第2位である。東京都においては特別区や市町村がそれぞれ独自の観光振興施策を展開しているため、主要な業務は都全体に関わる施設整備やキャンペーン事業である。よって実質的には最下位であるといえる。また第三位の横浜市(318千人)ではコンベンションビューローの事務局員が47名おり、川崎市における観光振興に携わる人員の少なさは突出して目立っている。(市民・行政職員と観光予算の関係【平成14年度】 表4-2-1 参照)

市民・行政職員と観光予算の関係（平成14年度）

	観光客数	平成13年3月の人口	職員数	職員一人当たりの人口	住民一人あたりの観光予算	観光担当職員一人当たりの予算	一般歳出予算	観光振興として明確化されている歳出予算
札幌市	13,280千人	1,844千人	27千人	68千人	6,963円	475,513千円	827,150,000千円	12,838,853千円
仙台市	13,515千人	1,018千人	21人	48千人	592円	28,700千円	403,093,000千円	602,701千円
千葉市	16,882千人	902千人	9人	100千人	291円	29,154千円	344,430,000千円	262,385千円
東京都	なし	12,073千人	35人	345千人	212円	73,086千円	11,973,700,000千円	2,558,000千円
川崎市	12,810千人	1,280千人	4人	320千人	83円	26,520千円	527,274,473千円	106,081千円
横浜市	33,784千人	3,493千人	11人	318千人	588円	186,807千円	1,316,100,000千円	2,054,878千円
名古屋市	20,688千人	2,183千人	11人	198千人	1,054円	209,193千円	1,040,800,000千円	2,301,119千円
京都市	41,322千人	1,467千人	21人	70千人	503円	35,137千円	649,428,000千円	737,871千円
大阪市	101,118千人	2,618千人	28人	94千人	427円	39,964千円	1,827,800,000千円	1,119,000千円
神戸市	27,380千人	1,509千人	10人	151千人	3,312円	499,818千円	836,300,000千円	4,998,177千円
広島市	9,233千人	1,133千人	9人	126千人	432円	54,433千円	541,157,123千円	489,900千円
北九州市	10,222千人	1,008千人	21人	48千人	1,561円	74,932千円	567,011,000千円	1,573,580千円
福岡市	15,596千人	1,354千人	8人	169千人	2,284円	386,518千円	722,803,000千円	3,092,144千円

13大都市の平成14年度観光関連予算の特性

	一般歳出予算	観光振興として明確化 されている歳出予算	一般会計に占める 観光予算の割合	うちハード関連（維持 費・建設費など）	観光予算全体に占める ハード関連の事業費	ハード関連以外の事 業費	ハード関連以外の事業費に 関する川崎市との比較
札幌市	827,150,000千円	12,838,853千円	1.55%	12,113,655千円	94.35%	725,198千円	6.84倍
仙台市	403,093,000千円	602,701千円	0.15%	206,201千円	34.21%	396,500千円	3.74倍
千葉市	344,430,000千円	262,385千円	0.08%	163,930千円	62.48%	98,455千円	0.93倍
東京都	11,973,700,000千円	2,558,000千円	0.02%	105,800千円	4.14%	2,452,200千円	23.12倍
川崎市	527,274,473千円	106,081千円	0.02%	0	0.00%	106,081千円	1.00倍
横浜市	1,316,100,000千円	2,054,878千円	0.16%	1,362,948千円	66.33%	691,930千円	6.52倍
名古屋市	1,040,800,000千円	2,301,119千円	0.22%	1,524,433千円	66.25%	776,686千円	7.32倍
京都市	649,428,000千円	737,871千円	0.11%	6,000千円	0.81%	731,871千円	6.90倍
大阪市	1,827,800,000千円	1,119,000千円	0.06%	0	0.00%	1,119,000千円	10.55倍
神戸市	836,300,000千円	4,998,177千円	0.60%	4,043,746千円	80.90%	954,431千円	9.00倍
広島市	541,157,123千円	489,900千円	0.09%	187,520千円	38.28%	302,380千円	2.85倍
北九州市	567,011,000千円	1,573,580千円	0.28%	994,548千円	63.20%	579,032千円	5.46倍
福岡市	722,803,000千円	3,092,144千円	0.43%	2,167,836千円	70.11%	924,308千円	8.71倍

川崎市の観光推進部署の関連予算は106,081千円であり、最下位である。(表4-2-2)第12位は千葉市で262,385千円であり、川崎市の約2.5倍となる。

一般会計予算に占める観光推進予算の割合は川崎市においては0.02%であり、第11位の東京都と僅差である。しかしながら東京都の観光推進部署の関連予算は2,558,000千円であり、川崎市の24倍となる。第11位の千葉市が262,385千円であり約川崎市の2.5倍である。

観光担当職員一人当たりの観光推進部署の関連予算額から分析してみると、川崎市は26,520千円となっており、13大都市の中で最下位である。観光担当職員一人当たりの観光推進部署の関連予算額が2,000万円台の自治体は川崎市・千葉市・仙台市の3自治体である。

人口一人当たりの観光推進部署の関連予算は、川崎市は82.9円であり、13大都市中最下位である。第12位が東京都の211.9円であるが、東京都は前述の通り、23区や市町村が独自の取組みをしている。第11位の大阪市が427.4円であり、100円以下の自治体が川崎市以外存在しない点でも、川崎市における観光推進部署の関連予算措置の少なさが目立っている。

以上からわかるように、川崎市の観光施策の行政における優先度が低く、観光振興を重視した施策の転換を期待したいが、一方で景気が長期にわたり低迷している現状では、政策の大転換が必要となり現実的ではない。しかし、現状の観光振興体制を見直し、市民、関係団体、関係業界と連携することでできることがあるはずである。

そこで次に「誰が」どのような形で関わっていくべきかに触れたい。

(3) 組織に関する提言

地域の活性化や雇用機会の増大などの効果を期待して、国や地方自治体等が観光産業に注目し、重要な産業として位置づけていく方向性に対して、観光産業に対する川崎市としてのスタンスを定めていく必要性は高い。市として観光振興に対するビジョンを定め、観光振興施策を展開するに当たって、市民や業界関係者、行政の間での情報交換や連絡体制、意思決定の場の整備が必要である。その中において、行政の役割は、施策の決定よりもスムーズな観光振興施策の展開のための場を提供することを重視すべきであるといえる。また、観光協会に関しては現状(資料編123P「5.地区観光協会組織事業概略」参照)の取り組みにとどまらず、より積極的な観光振興に対する取り組みが求められているといえる。

以上の考え方を踏まえ、川崎市における観光推進組織のあり方を以下の通り提言したい。

○行政内部の横断的な組織の確立

現状の観光に関する推進体制では、人的、予算的な限界があるが、一方、観光推進を担当する商業観光課以外にも、観光資源となりうる取組みは各組織

で行っている(18P 表2-1-1 平成15年度 都市観光的要素を持つ事業一覧表)。これらの中には、経済局、まちづくり局、環境局、市民局に加え、各区における「魅力ある区作り」推進事業や従来から区の事業として行なわれている「観光振興」も含まれる。特に各区の取組みは、地域に根ざした観光推進事業であり、継続して取り組んでいくことが望ましい。そしてこのような取組みを観光資源としてより価値のあるものへと高めるため、縦割りにとられず、各部局同士の連携や商店街、地域等の民間のイベント等とうまく連携させることが必要といえる。その第一歩として、常時観光関連事業を持つ部署との情報交換や連携ができる体制の確立は不可欠といえよう。案としては

- ・ 観光担当課が中心となり、各区役所の企画調整担当主査(H15から)、区政推進課、市民局、等の観光関連事業あるいは観光資源となりうる事業を持つ部署との庁内連絡会議の定期的開催等

は検討の余地はあろう。観光振興の面で未成熟な川崎市においては、観光振興を庁内一丸となった連携体制の確立が最低限必要といえよう。メーリングリスト等を活用して、平時よりの情報交換等に活用しうるであろう。

○行政内における観光振興プロジェクトチームの新設

観光推進事業は組織の枠にとられない自由なアイデアを「素早く」実現することを要するため、行政としては

- ・ 同性的な観光振興施策やアイデア、そしてそうした取組みに意欲をもつ職員を公募で募り、観光振興事業のためのプロジェクトチームをつくり施策を展開すること

等が可能ではなかろうか。ソフト面をメインとし、観光振興の視点から各取組みに期限を定めて取り組むものとし、「鮮度」や「非日常」が重要視される都市観光振興におけるソフト事業を迅速に展開していくことが必要であろう。

○(財)川崎市文化財団機能の強化

平成16年度より川崎駅西口文化ホールがいよいよ始動する。都市の文化創造力を高め、都市固有の魅力として発信するためには、芸術文化によるまちづくりを目的にしたプロジェクト事業の推進が始まる(前出 平成15年度 都市観光的要素を持つ事業一覧表 参照)。そのための強力な推進母体として、これまで本市の文化事業を推進し、文化事業、歴史文化の発掘および顕彰、公演事業、美術展等事業により、一定のノウハウを蓄積してきている(財)川崎市文化財団のアートマネジメント能力の向上を図るとともに、地域のイベントや民間劇場や文化NPO等との連携を図り、地域振興の観点での積極的な活動を期待したい。

○集客戦略研究部門の設立

川崎市では現在のところ観光調査関連の事業は予算化されていないが、「か

わさき」というまちをブランド化しアピールするためには、川崎への来訪者の多様なニーズにきめ細かく対応できる集客施策を展開する必要がある。そのためには、観光関連専門家等とともに、圏外の都市や集客拠点等との連携も視野に入れた戦略的な集客施策の展開について調査・研究を行う専門研究組織をもつことが必要であろう。

○行政・観光協会と民間業界、市民、NPO、大学等が一体となった体制を検討整備すること

前述1及び2で提案したような確立された体制を活かして、民間の様々なニーズとマッチングさせるための民間参加システムの構築へと発展していくことが望ましい。行政・観光協会以外で連携可能な組織としては、商店街等の業界団体、旅行会社、宿泊業者、NPO等の市民団体が考えられ、今後連携体制を模索していくことになる。 (77P 表4-4-2 具体的な提案を実現するために～川崎市における観光に携わる行政、観光協会、市民、観光客、関係団体の相関図 参照) 今後、検討すべきものとしては

- ・ 観光関連団体の統合による強力な推進体制の確立
- ・ 川崎市観光協会連合会と各観光協会の組織強化、観光振興事業の拡大、川崎市観光協会連合会と各観光協会の連携強化
- ・ 商店街等の業界団体、旅行会社、宿泊業者、NPO等の市民団体との連絡調整態勢の確立
- ・ フォーラムの活用(「かわさき観光フォーラム」の開催)

等が考えられる。多彩な都市型観光資源を活かした魅力都市づくりや、シティ・プロモーションの推進ホスピタリティの醸成等のためには、市民、行政、関連業界が一体となった取り組みが必要である。本市関係部局による横断的組織と、観光協会連合会、商工会議所、商店街連合会、地元のホテル業者、交通機関の業者との連携をしていくための定期的な会議を開催し、「かわさき観光フォーラム」等のイベントでその姿勢を外に向かってアピールすることが望ましい。ホームページやメーリングリストの活用による情報の共有も有効であろう。横断的な情報交換や連携協力のありかたの検討、民間レベルでの柔軟な事業展開の可能性についての今後も検討されていくこととなる。

最終的には地域レベルの集客システムを整備する来訪者の市内周遊を促進するため、上記の全市レベルでの推進組織と連携して、地域レベルで市民、NPO、民間業界等が協力して集客、周遊に取り組むシステムを順次構築できれば望ましい。

3 都市観光のまち 川崎市を目指すために

ここでは、「都市観光のまち 川崎市」を目指すためのいくつかの提案を紹介したい。提案は、第3章で抽出した課題に対応するものをはじめとして、今すぐにも実施できるもの、草の根運動的な地道な活動や、また、少しの努力と工夫がいるもの等、様々な視点から挙げている。しかし、本章の前段で述べたような組織体制が確立すれば必ずしも困難ではないものばかりである。本研究会の1つの成果としてここに提示したい。

(1) 見どころマップの作成

第3章の事例研究の結果、私たちはいくつか克服すべき課題を挙げた。そのうちの大きな課題のひとつとして「情報」に関する課題がある。観光資源に関する情報をいかに集約し、その情報、すなわち観光資源をだれに、どのように見せていくかという課題である。この課題について、私たちはこの研究で1つの実験を行った。それが、第4章の付録として添付した「見どころマップ」の作成である。事例研究として取り上げた2つの区について、それぞれ、川崎区は『川崎区まちあるきガイド』、多摩区は『生田緑地の新しい楽しみ方ガイド』と題して、各地域の見どころをマップとガイド文で紹介したものである。これらについては、この研究活動の中で限られた時間と情報ソースから作成したものであり、多様に混在する観光情報の全てを網羅しきれてはいないかもしれないが、1つのテーマに沿って分かりやすく、楽しく観光情報を提供してみようという1つの提案の完成形である。市民のニーズの中にも総合的な観光ガイドを希望する声もある。行政として必要な最低限の情報を伝えるということだけでなく、楽しんでもらえる仕掛けづくりも必要ではないだろうか。

(2) 季節のお楽しみカレンダーの作成

この趣旨も(1)と同様である。第4章 付録に添付した『川崎駅周辺イベントカレンダー』と『生田緑地開花カレンダー』は観光資源となる情報をひとつのテーマに沿ってまとめたものである。もちろん、これらは観光情報の提供の形としては珍しいものではない。情報を発信する手段のひとつとしてここで提示するのは、情報を整理の方法として有効な手段であると考えられるというのが理由である。

(3) バスによる交通アクセスの補完

ア 川崎区の場合～トロリーバスの使用

第3章より見えてきた川崎区の観光エリアは、第一に年間1000万人訪れるといわれる「川崎大師」、第二に様々な商業・娯楽施設の密集している「川崎駅周辺」、そして第三に桜本・大島・浜町で様々な地域・民俗文化を形成している「おおひん地区」、最後に「臨海部」であったが、これらの場所は点在しており

交通の便が決して良好ではないということが課題である。繰り返しになるが、川崎区において、川崎大師には年間を通じて多数の人が訪れているのである。そこで、川崎区全体の交通の利便性を向上させるために、どのような手段があるかを考える。

交通環境の改善の為に、地下鉄や路面電車といったものの整備を進めるのは、予算面の負担が大きく現実的でない。次にトロリーバスである。川崎においてもトロリーバスは1970年ごろまで走っていた。しかし、トロリーバスの運行は、自動車交通量が増大し2車線分を占領することに非難が向けられ、廃止に至った。また、電気で走るのも環境には良いが、街中が電線だらけになり、視界をさえぎるので景観に悪い。そこで循環型のシャトルバスを提案したい。上にあげた、川崎の観光エリアだけに停まるバスを走らせるのである。このバスにさえ乗れば、必ず駅や主要なポイントにたどり着けるということが、観光客に安心感をもたせる大事な点であろう。これはハワイやサイパンといった観光地によくあり、そして日本でも小田原で実験的に期間を決めて走らせている。

実施ルート

川崎駅前



追分の交差点



コリアタウン入



川崎マリエン



川崎大師駅前



競輪場前



<実施にあたり考えられること>

- ・ 市営バスのルートを活用するため、市交通局で行うことが望ましい。
- ・ 土・日・祭日のみの運行であり、現在運行されている川崎区の普通バスの本数を減らし、このバスを運行に振り向けられないだろうか。
- ・ 時間は朝10時程度から夜9時程度までが妥当(臨海部の夜景も楽しめるため)
- ・ 一回乗るのに100円程度にする。全てのバス停で降りたとしても600円である。
- ・ 市民サービス向上のため、観光客でなくても利用可能にする
- ・ バスのデザインを普通の市営バスとは異なるものにする。デザインの参考例としては、ハワイのトロリーバス、ロンドン・香港の2階建てバス、サンフラン

シスコの路面電車、昔の川崎のトロリーバス等

- ・ バス内で川崎の名物のお菓子を販売し、川崎の銘菓・名物をPRする。
- ・ ボランティアバスガイドを市民公募で募集し、川崎区内のみどころを案内してもらう。
- ・ 川崎区内のかくれた観光情報を市民から募集し、時間帯や季節ごとに違うガイドをテープ等で流す。

等により運行する。このバスにより川崎に来る人が、川崎駅から京浜急行大師線で川崎大師に行き帰るだけでなく、川崎のさまざまな観る価値のある場所に、足を運んでくれるだろう。

イ 多摩区の場合～コミュニティバスの使用

交通アクセスは、その整備ということ考えると物理的に難しいところが多い問題である。しかし、避けては通れない問題でもあるので、ここでは実現可能と思われる2つのことについて提案したい。まず、生田緑地までの歩道整備である。これは、現在工事中であり、時間の問題という状況であるが、あわせて案内板の設置もおこない（多摩区役所地域振興課にて設置作業中）、歩行者に「生田緑地までの道」であることを意識してもらうことが必要である。もうひとつが、バスという交通手段である。現在のバス路線は第三章で述べたとおり十分に機能しているとは言い難い。新たなバス路線を整備する必要がある。これについては、向ヶ丘遊園跡地のばら苑、そして、JR南武線宿河原駅や登戸駅も含めた回遊性のあるコミュニティバスの運用を提案したい。生田緑地周辺から向ヶ丘遊園跡地までの地域は最寄り駅から遠く、さらにモノレールの廃止により、レジャーの足、そして市民の足も不足している状況である。こうしたことを補う意味でも価値があると思われる。このように、自治体が運行するコミュニティバスでは、武蔵野市の例がある。「ムーバス」と呼ばれる武蔵野市のバスは、市域の大部分を占める住宅地と中心市街地を結ぶための補完的な役割を果たしているが、運行を民間バス会社に任せ、運行経費の削減と高齢者再雇用の目的で定年退職者が運転手を務める等、運営方法として参考となる点が多い。

(4) 全市的な観光情報の集約・発信について ～観光政策をコーディネート～

これからの本市における都市観光を考える上で、これまで研究してきた結果から導き出せる観光政策についてチームメンバー一人一人が構成作家となり、可能性を秘めたプランを提案してみることにする。政策の分類としては、次のように挙げられる。

- ① 情報発信の手法（情報の見せ方等）
- ② 市民に親しまれる観光プランの提供
- ③ かわさきならではのウリをアピールする。

① 情報発信の手法（情報の見せ方等）

○職員一人一人が広告塔に

地域における観光政策を打ち出す上で、第一に我々職員一人一人が観光政策の主人公となり、観光情報のスポークスマンとなる必要がある。職員が通常の業務の中で何らかの形で川崎市のPRに貢献する。何気ないことでも目線を変えてみると違ったものの見方ができる。例えば普段持ち歩く自分の名刺の裏に川崎の地域に関する情報を掲示することによって、名刺を渡した相手に情報を伝達するという本来の仕事だけの効果のみならずこれ以外のプラスアルファが生まれることが期待される。また、職員が使用しているメールシステムを活用することも考えられる。こうしたことで職員一人一人が都市観光における広告塔の役割を果たすことが可能である。さらに職員研修の一環として地域のワークショップを積極的に啓発し、職員一人一人がまちを知る機会を持ち、まちに関する情報をストックし、その情報を一元化することで観光情報の充実が図られる。

○情報収集整理の組織強化

本市における地域情報の課題として、情報の量が豊富にあるにもかかわらず、横断的な情報連携が不足していることがあげられる。単一的な地域の情報を一元化することで今後の観光情報を発信する一つの礎を築くことが可能であろう。対外的にかわさきの良いイメージを定着させるために本市における刊行物等を統一化するよう確認、指導すべき組織強化が必要である。

○観光に関するロゴマーク創設

人々が頭の中にその地域をイメージするためには、目で見ると効果が必要である。かの戦国時代には戦国大名が自らの家を象徴するものを旗印に掲げ、戦いに挑んでいたように、それを見れば何かを連想するという視覚効果を今後の観光政策に活かさないだろうか。そこで川崎市の観光に関する新しいロゴマークについて市民と連携しながら考案し、PRの一環となるべく考えていくべきではないか。

○市バスによるPR

市内各所を運行している市バスを活用した情報発信が考えられないだろうか。これも視覚効果を期待させるものである。例えば運行する地域に応じてその地域の特色がアピールできる外観にすることで市民等に明るいイメージを定着させることも可能であろう。川崎区であれば「海」や「川」をモチーフとしたブルーカラー、自然が多く存在されている多摩区であればグリーンカラーをベースとすることで地域のイメージアップにつながる可能性が秘められている。

② 市民に親しまれる観光プランの提供

○文化とスポーツのまちかわさき

JR川崎駅西口近郊に西口文化ホールが近く完成し、東京交響楽団が活動の拠点として活用することとなっている。また、川崎市は現在フットサルJ2に在

籍している川崎フロンターレがフランチャイズとしていることから、この二つの団体を一つの観光資源として捉え、市民向けの音楽・サッカー活動の支援やイベントの開催等を行うことによって対外的な地域のアピールや地域に活力を与える。

○ターゲット向けに応じたプラン

川崎市は「働くまち」というイメージが強い。これはオフィスが集積されていることや京浜工業地帯の中核である臨海部が存在していることが大きな要因とされている。この現況を逆に観光政策として活用できないだろうか。川崎市という地域を見渡すとターゲット層に応じた観光資源が散在している。高齢者層は川崎大師平間寺を中心とした大師地区、若年層や女性層はラ・チッタテッラを中心とした川崎駅周辺地区、ファミリー層は生田緑地といったものである。しかし、ビジネスマンを中心とした労働者層をターゲットとしたものが足りないといえよう。そこで「働くまち」ならではのまちの良さをウリとしたプランが提供できないだろうか。

③ かわさきならではのウリをアピールする。

○名産品を活用

多摩区の名産品といえば、なんといっても「多摩川梨」であろう。この「多摩川梨」という地域の名産品と観光資源である生田緑地を組み合わせた観光プランを広くアピールしていく。多摩区にはJR南武線や小田急線といった鉄道機関や市バス、小田急バス等のバス機関が交通アクセスとして整備されている。こういった機関との連携を目指すために観光資源を認識してもらう必要がある。また、銀行や駅前等人が集積するスポットへの出張観光ブースの設置により、市民と連携しながら観光資源をPRしていくことも可能ではないだろうか。さらに交通アクセスを考える上で外せないものが「自動車」である。この自動車の交通アクセスとして高速道路がわが国には全国的に整備されている。この高速道路にあるサービスエリア内に設置されている店舗を見ると、その土地の名産品を販売しているところがほとんどである。幸いにも本市内には東名高速道路があり、東名川崎ICから全国各所へ移動する市民はもちろんのこと、全国の人々が移動経路として東名高速道路を活用している。よってサービスエリア内に川崎の出張名産品ショップを設け、川崎の名産品を全国の消費者にアピールすることも可能であると考えられる。ものを知る機会を持つことによって、次はその地域を訪れてみようという人間の行動を起こすきっかけづくりとしても大いに期待できる。

4 エコツーリズムに基づいた都市観光振興の「基本理念」とエコツーリズムの起点を充実させるための「提案」との関係を整理する。

この研究ではエコツーリズムの循環構造を基本方針として川崎市の都市観光振興の可能性を探ってきた。川崎市においては、都市観光の起点を「地域資源の保護・保全」と捉え、その起点を充実させるために「情報」を中心課題として「観光業」へと結び付けることとし、行政・観光協会・市民・関係団体がどのような組織体制であるべきかを論じた。そして組織体制を活かして、具体的にどのような取り組みをすべきかがこれまでの提案である。「誰が、誰に対して、何を、どのようにして」という視点で、

- ・ 具体的な提案を実現するために（行政・観光の組織体制 表4-4-1）
- ・ 具体的な提案を実現するために～川崎市における観光に携わる行政・観光協会・市民・関係団体の相関図（表4-4-2）

として図でまとめ、

- ・ 都市観光チーム企画書

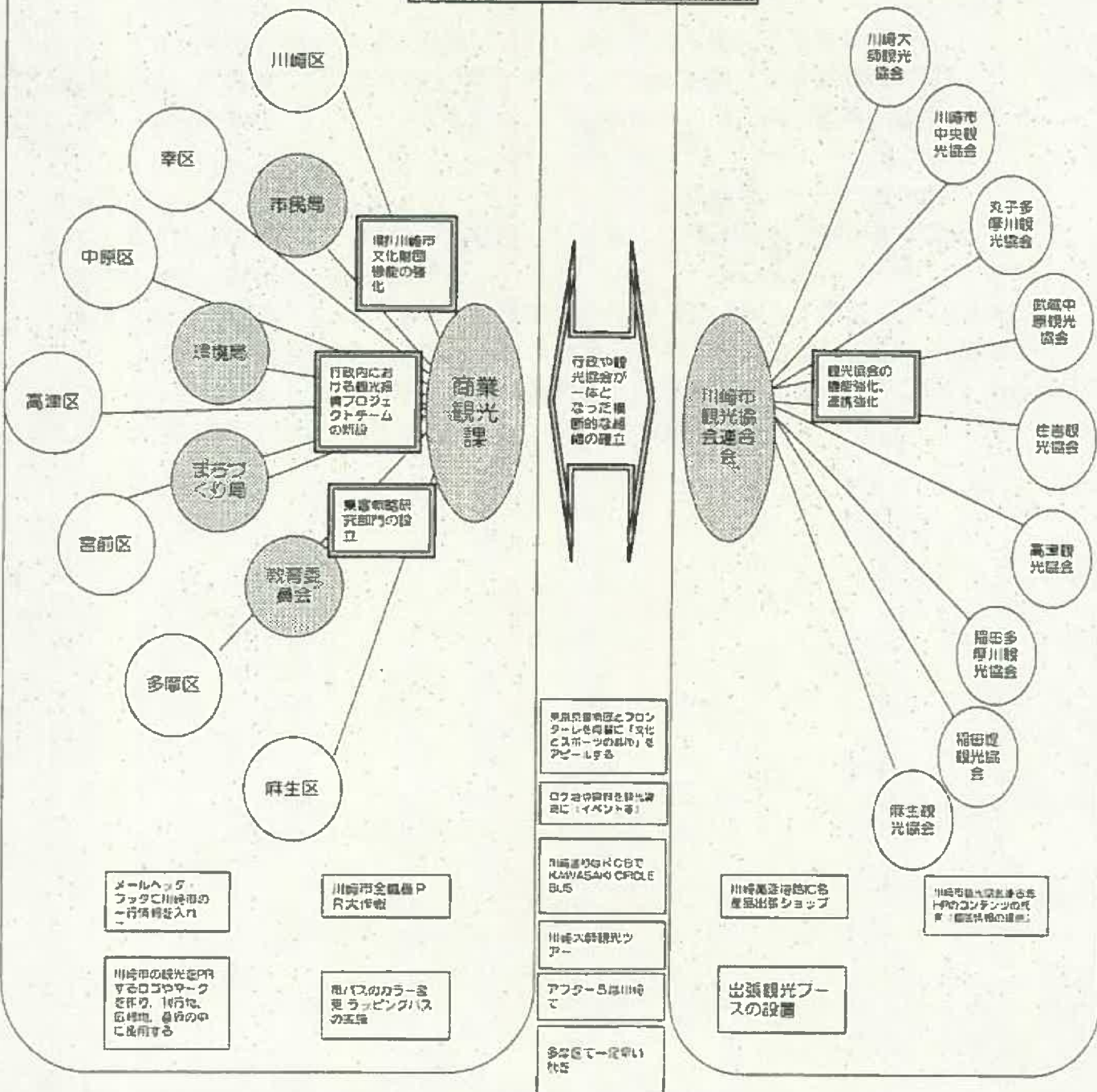
により具体的な提案内容を示し、第4章の結びとしたい。これらの取り組みがひとつずつ実現し、結合しあうことで、初めて川崎市における都市観光の起点を形づくることができる。そして、これらの取り組みがきっかけとなり、川崎市に観光産業が芽生え、地域社会に対する愛情や誇りが醸成され、地域コミュニティの再生・強化へとつながり、それらが地域資源のさらなる保護・掘り起こしへとつながるエコツーリズムの循環構造への第一歩となるのである。

具体的な提案を実現するために
(行政・観光協会の組織体制)

情報に関する提案

船庫に関する提案

既存の組織の連携強化



川崎市 川崎市観光協会連合会に期待されていること
紹介するべきものの整備 (ソフト・ハード)
観光の情報集約、整理、管理、発信
ゲストの関与 (誰が川崎に対して興味を持ってくれるか)
ホスト側の受入体制の整理 (観光行政体制や行政と民間の連携、近隣自治体同士の連携等)

具体的な提案を実現するために～川崎市における観光に携わる行政・観光協会・市民・観光客・関係団体の相関図

情報に関する提案

組織に関する提案

出発地=ゲスト社会

川崎市民

観光者
日本
海外

都市観光を通じての交流
川崎のまちってどんな街?

目的地=ホスト社会

川崎市民

川崎市の地形や特色から川崎市内の各地区の住民は観光に関しては相互にホストにもゲストにもなりうる。

コーディネーターとしての行政 観光協会

行政・観光協会と民間業界、市民、NPO、大学等が一体となった体制の整備

川崎市民観光モニター制度の導入

紹介者の市民募集、育成、組織化

ものづくり職人の組織化

旅行業
旅行代理店等

交通業
観光バス
観光タクシー等

宿泊業
ホテル協会

観光事業者同士の連携

活場やイベントを観光資源として活用する

都市観光チーム企画書 1

企画・アイデアテーマ名	川崎市全職員PR大作戦
ねらい	川崎市の職員が部署に関係なく何らかの形で川崎市のPRに貢献することにより川崎市の観光振興人員の不足をカバーする。
内容	各自が川崎市をPRするための取り組みを選択肢業務の一環として実行する。あらかじめ用意された選択肢の中から選ぶが、自ら提案したものに取り組み。
実施スキーム	通常業務の一環とする。就業・非就業関係なく行なう。(川崎市をPRするBUYかわさきの取り組みとして)
費用についての考え方	通常の実務の一環として行なうため特別な費用を要しないところから取り組み。 (比較的少ない予算でのPRが可能)
取り組み例	<ul style="list-style-type: none"> ・用意された名刺のテンプレートからダウンロードし、名刺の裏に川崎市の情報をのせる ・川崎市の「まち」の情報をWEBを通じて提供する等 ・新入職員研修の一環として川崎市のいいところを発信し、川崎のまちを知ると同時に、情報の収集に協力する。
備考 問題点等	PRすべき情報の整理が必要

都市観光チーム企画書 2

企画・アイデアテーマ名	メールヘッダー・フッターに川崎市の一行情報を入れる。
ねらい	予算をかけずに川崎市職員が対個人に対して川崎市のPRができる。 取り組みが真新しく話題性もあり効果的
内容	川崎市の職員が使用しているイントラネット経由のメール送信を行なう場合には、川崎市の情報を必ず添付するようにする
実施スキーム	フィルタリングについてはサーバーなどを管理する行政情報課が処理する。添付する情報については基本的にはリンクと一行情報が基本。添付情報に関する基準やガイドラインの作成が必要となる。
費用についての考え方	サーバー・フィルタリングの管理のみ (比較的少ない予算でのPRが可能)
取り組み例	メールの最後に 「川崎駅周辺のお勧め情報はこちらまで http:// 」 「地元の人しか知らない川崎大師の情報はこちらまで http:// 」など
備考 問題点等	PRすべき情報の整理が必要

都市観光チーム企画書 3

企画・アイデアテーマ名	ものづくり職人の組織化
ねらい	川崎市におけるものづくりは日本でもトップレベルのものであり、海外からの旅行者や修学旅行生などをうまく呼び込むことを目指す。日本の技術紹介はインバウンド増加への取り組みの流れに乗れば観光対象となりえ、観光を川崎市にとっての新たな産業と位置付けるきっかけとなりうる。
内容	ものづくりを観光化すると受け入れ側に負担を強いるため、引退した職人や企業O日の社会参加の場として用意する。
実施スキーム	既存の組織の活用も可能？ あるいは市民活動支援の中心を担う市民局による土台作りは必要といえる。 観光協会が受け入れ側とビジターとのマッチングをする
費用についての考え方	所管局となった部署が負担 負担金が補助金による運営
取り組み例	
備考 問題点等	小樽市における中心市街地の取り組みに同様のものがある。紹介者育成の一例。

都市観光チーム企画書 4

企画・アイデアテーマ名	「イメージアップ課」の創設
ねらい	川崎市のよいイメージを対外的に統一化、定着化する。
内容	川崎市の観光情報の収集・整理・発信の基幹となる部署の創設
実施スキーム	市民局広報課機能の拡充、充実
費用についての考え方	新設部署の人件費
取り組み例	川崎市にイメージアップのための企画・調査を行なう。川崎市の刊行物や広報物のイメージを全庁横断的・統一的にするようチェック指導を行なう。
備考 問題点等	

都市観光チーム企画書5

企画・アイデアテーマ名	川崎市の観光をPRするロゴやマークを作り、刊行物、広報物、看板の中に使用する
ねらい	川崎市の観光のイメージの対外的統一化、定着化
内容	企画の通り
実施スキーム	全庁的横断的なプロジェクトチームと市民参加による
費用についての考え方	企画に携わる職員の人件費 サインなどの掛替えにかかる費用
取り組み例	観光ガイド、その他川崎市のパンフレットなどに、ロゴやマークをいれて、カラーの統一を図る。
備考 問題点を	以前に市民公募による川崎市のマークづくりの取り組みは行われている。

都市観光チーム企画書6

企画・アイデアテーマ名	市バスのカラー変更 ラッピングバスの実施
ねらい	市内各地で走るバスを市の広告塔として明るいイメージで定着させる
内容	企画の通り
実施スキーム	交通局 市民参加
費用についての考え方	車体のカラー塗り替えには多額の費用を要する。広告収入が見込めれば経費節減となる。
取り組み例	(ラッピングバスに関する調査参照)
備考 留意点を	都市景観の問題 (ラッピングバスに関する調査参照)

都市観光チーム企画書7

企画・アイデアテーマ名	東京交響楽団とフロンターレを両翼に「文化とスポーツの都市」をアピールする
ねらい	全国規模の知名度のある2団体を積極的に活用し対外的に川崎市をアピールする。
内容	東京交響楽団、フロンターレから派生させ、市民の音楽活動やサッカー活動を支援、イベントの開催などを行う
実施スキーム	市民局 商店街との連携 東京交響楽団 フロンターレ
費用についての考え方	イベントに関しては実行委員会を組織し、地元企業に協賛金や広告料を募る。
取り組み例	実行委員会のイベントの一環として川崎市商店街連合会や商工会議所との連携、川崎市の各種イベントなどと連携し、一連のキャンペーンとし、観光振興と商業活性化の相乗効果を計る。
留意 留意点等	

都市観光チーム企画書8

企画・アイデアテーマ名	出張観光ブースの設置
ねらい	銀行、郵便局、駅前など人の集まりそうなところに出張案内ブースを作ることで、多摩区の観光資源のPRと案内を行う。
内容	人の集まりそうなところに出張案内ブースを作る。紹介者は地域住民で行う
実施スキーム	各区観光協会が中心となることが望ましい
費用についての考え方	市からの補助金を受けて ブース出店の経費は観光協会が負担
取り組み例	
留意 留意点等	観光協会の組織的財政的基盤の強化が大前提となる。

都市観光チーム企画書 9

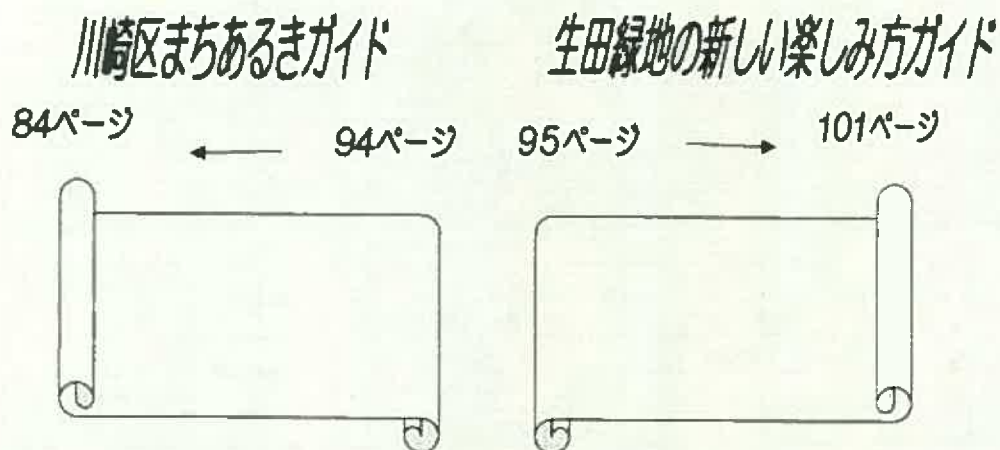
企画・アイデアテーマ名	川崎高速道路SA・PA名産品出張ショップ
ねらい	高速道路に出張名産品ショップを開店し、川崎市の名産品を全国の消費者にアピールする。
内容	全国の人が訪れる高速道路のサービスエリア、パーキングエリアに川崎の名産品を置くショップを展開する。
実施スキーム	川崎市観光協会連合会が中心となること望ましい。（お菓子サミットやTHEかわさきなどのノウハウの活用）
費用についての考え方	出展者の負担金と営業利益にてまかなう。
取り組み例	
備考 問題点等	観光協会の組織的財政的基盤の強化が大前提となる。

都市観光チーム企画書 10

企画・アイデアテーマ名	川崎市観光協会連合会HPのコンテンツの充実（個店情報の提供）
ねらい	川崎市観光協会連合会のHPを充実させ、川崎市の観光情報を一元化する。
内容	個店情報やイベント、見所などの観光資源の情報の集約とデータベース化を行い、検索機能を持たせる。（観光情報HPの維持管理について）
実施スキーム	川崎市観光協会連合会による観光情報HPの立ち上げ
費用についての考え方	市からの補助金を受けての 川崎市観光協会連合会の負担
取り組み例	川崎市では平成14年度 観光情報データベース作成事業を行っており、収集した情報を活用して観光情報HPが立ち上がることが期待される
備考 問題点等	観光協会の組織的財政的基盤の強化が大前提となる。

付録

川崎区のまちあるきガイド・イベントカレンダー
多摩区のガイドマップとカレンダー



94ページ 95ページから見開きまで読んでください



臨海部地区 夜景と船へのいそがない

みる



夜景

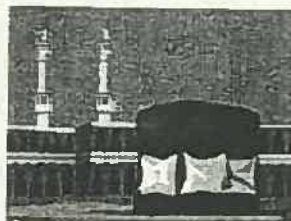
川崎の臨海部に観光資源などないだろうと考えるのはいささか早合点と言える。臨海部の夜景は、雑誌や夜景をテーマにした本にも取り上げられているのである。具体的な夜景のポイントとしては、川崎マリエんと夜光町があげられる。最近流行りの風水では、川崎マリエンの展望台から北に東京タワーを見ると、恋愛運が上がるといわれている。交通の便が悪いのがたまに傷だが、駐車場があるので、マイカーを持つカップルはぜひ行ってみてほしい。夜光町はその名前が示すとおり、川崎臨海部の夜の風景を一望できる。都心部に高層ビルが多数できているが、それらの夜景とは一線を画す風景である。他との違いを考えるならば、川崎の臨海部のリアリティーを味わってほしい。

船からの風景

今回の研修中に、港務局の巡視船に乗せてもらう機会を得た。川崎臨海部のイメージは工業地帯の印象が強くあまり期待してなかったが、想像するのと見るのとは大違いであることを実感した。船からの風景は、遠船トックや巨大クレーンなど普段見ること



川崎区イベントカレンダー



とのないものが目の前を通り過ぎていき、遊園地のアトラクションのようだった。遊園地は作り物であるが、川崎臨海部で見るとは本物である。現在、このクルーズは常時運行されていないが、見る価値はあると感じた。

冬	1月	20日	初大師	川崎大師
		21日		
春	2月	3日	彫分会・豆まき式	川崎大師
	3月	中旬	アリラン祭り	労働会館
		第一日曜	おおひん地区春のまつり	桜川公園
	4月	第一日曜	かなまら祭り	金山神社
	5月	12日	ご本尊弘法大師 開扉奉祝祭	川崎大師
	5月	第3土日	日枝大神社 例祭	日枝大神社
夏	7月	中旬から下旬	川崎大師風鈴市	川崎大師
	7月	20日	川崎大師サマーフェスタ	川崎大師周辺商店街等
	7月	最終日曜	夕雲稲荷祭り獅子	夕雲稲荷
	8月	1から3日	川崎山王まつり	稲毛神社
	8月	第一土日	中島八幡宮祭獅子	中島八幡神社
	8月	第二土日	若宮八幡宮祭獅子	若宮八幡宮
秋	10月	前半	川崎阿波踊り	川崎駅前周辺
	10月	第3日曜日	水鳥のまつり	若宮八幡宮
	10月	20日	新神楽	若宮八幡宮
	10月	中旬	かわさき港まつり	川崎マリエ周辺
	10月	中旬	沖橋芸能大会	教育文化会館
	10月	後半	カワサキハロウィン	ラッチタテラ周辺
	10月	下旬～11月下旬	川崎菊花大会	稲毛公園
	11月	1日	ふいご祭り	若宮八幡宮
	11月	3日前後	かわさき市民まつり	富士見公園一帯
冬	12月	1日から1月初旬	FANTASYかわさきインナイト	川崎駅東口周辺
	12月	20日から21日	おさめの大師	川崎大師



学んでみよう



川崎市と外国人居住

川崎市のおおひん地区と外雇人のつながりは深い。また、川崎市と在日外国人への施策のつながりも深い。

おおひん地区には様々な国の人がいる。しかし、もともとつながりが深いのは在日韓国・朝鮮人の人である。これは、1910年の日本の韓国併合後、1938年の国家総動員法に基づいて多くの挑戦労働者が逼迫する国内の労働力の供給源として移出されたことに由来する。川崎区に在住するオールドカマーと呼ばれる人々の多くはこのような状況で日本に住み始めた。苦勞が多かった第一世代の時代には日本の政府も川崎市役所も援助の手を差し伸べていなかった。

大きく変わってきたのは、第一世代の子どもの代にあたる第二世代以降。朴君内定取消事件とそれをめぐる運動によってである。当時、日立製作所から内定を得ていた朴君は、在日であることと理由に内定を取り消された。この事件は二つの波紋を生じさせた。「外国人就職差別に対抗する」という動きと、「民族アイデンティティ確立として地域で本名で生活しよう」という動きである。



民族アイデンティティを確立するとは何か？川崎市で生まれ育った第二世代以降は、

母国での生活の記憶を持つ第一世代とは異なり、自ら民族アイデンティティを形成しなければならぬ世代であった。川崎教会の開設する校本保育園では、園児に本名で通園することを薦めた。しかし、園児が本名を名乗ることは、地域の中で一家が在日であることを宣言することにつながる。家族で意見が一致しても親戚が反対することもある。差別や偏見に苦しめられた第一・二世世代にとっては容易な判断ではなかった。

また、国籍変更も大きな問題だった。外国籍から日本籍へ変更さえすれば日本の各種の施策を受けられることは知られていたが、それでも、国籍の変更は大きな抵抗を伴った。なぜなら、母国を知らず、自ら民族アイデンティティを形成しなくてはならない第二世代以降にとっては、「国籍による差異」は民族アイデンティティを獲得するためのメルクマークである。ここで、外国人問題に対する運動は、第三の側面を見せ始める。すなわち、外国籍を持ったままで、いかに日本の各種施策の享受を勝ち取るか、ということである。つまり、彼らにとって、「国籍による差異」と「日本人との平等」がトリードオフの関係には無かったのである。

川崎市役所も静観していたわけではない。地域の住民や住民運動団体と共に、問題にとりくんだ。全国に先駆けて各種の施策が展開された。「市営住宅入居資格の撤廃」(1974)、「児童福祉手当の国要件撤廃」(1974)、「外国人に対する公立学校の修学案内の撤廃」(1976)、「要介護世帯に関わる奨学金制度の整備」(1977)、「外国人指紋押捺拒否者の非告発」(1985)、「公務

員の国要件の撤廃」(1990)、「外国人市民代表者会議の発足」(1996)「などである。

現在、第三世代、第四世代、第五世代も生活し、日本やその他の国の人と協力しながら暮らしている。

国際化社会に向けて、足元から共生を考えてきた歴史が、ここには確かにある。「ふれあい館」は、こうした運動の結果生まれた施設であり、今でも様々な課題に地域で取り組んでいる。焼肉だけではなく、この機会にぜひ立ち寄り寄って、多文化共生ということをじっくり考えたい。

川崎市と沖縄芸能

沖縄芸能は現在、川崎市及び神奈川県無形文化財に指定されている。市の文化財課によると、「これは全国的にも珍しいケースだと思えます。文化財というのは通常、その地域で生まれたものが対称になるんです。が」

異例のケースを受け入れたにはわけがある。文化財に指定された昭和27年はまだ沖縄が本土に復帰するかどうかもわからなかった戦後の混乱期。そこで、当時既に川崎で沖縄芸能の活動をしていた人々が、「万が一故郷の芸能が消えることになってもここで受け継いでいこう」と覚悟して市に働きかけたのだという。

沖縄と川崎の出会いは大正期。好景気に沸く京浜工業地帯に職を求め、沖縄から多くの働き手がやってきた。そして今、川崎・鶴見にはその子孫たちが多く住んでいる。県人会の長老は当時をこう振り返る。

「大企業の工場が多く、全国から働きにくる人々を受け入れやすい土壌があった。土地なども安く貸してくれましたね」

大成苑焼肉

セメント通りからだいぶ離れた人気のある六場のお店。是非一度こ来店ください。

穂高焼肉

受け継がれて50年。秘伝のたれでもまれたハラミは絶品！自家製サムゲタンも人気。

金剛苑焼肉

言くて、安くて、良心的！是非こ来店を！満足させます。

満喜焼肉

少し離れた桜本にある名店。当店手作りの味を是非こ賞味ください。

「桜本地区」

つくば韓国家庭料理

辛いものがお好きな方は是非一度お立ち寄りください。やまどりもありです。

ニュー桜苑本店焼肉

銘柄和牛を始め産地直送の素材の致々。良質な肉と料理を低価格でお届け上がりください。

あそぶ☆

大島劇場

川崎で大衆劇場と言えば「大島劇場」のほかにはない。

川崎沖縄県人会 誰でも参加できます芸術教室

県人会が中心となって建てた「川崎沖縄労働文化会館」は沖縄文化の交流のための施設。3階に資料室と写真のサンジーンと舞踊の練習場がある。TEL 044-233-8534

バーテンハウス 銭湯密集地帯で奇る

海岸部の埋め立てが進んだ大正期、川崎は日本有数の重化学工業地帯になった。立ち並ぶ大小の工場群に職を求めて人口増加の一途。昭和30年代の高度成長期には毎年数万単位で人口が膨らみつけられたという。銭湯の多さは、日本でも有数である。ここ、バーテンハウスは、元アパレル関係勤務という若主人が木造のりっぱな骨格を生かしつつ、明るく落ち着いた浴場に、特に男湯は日本庭園と大きな露天風呂が魅力。

地名よもやま

おおひん地区の面白地名探検隊



大島

大島川崎は多摩川の沖積層にできた土地であり、このため長い年月の中で地殻の変動や隆起を繰り返して南部地域が生まれたとされている。「川崎誌考」では、川崎区内の主な浮洲として、中島・久根崎・渡田・大島などをあげている。「大島」という地名は日本の各地にあるが、川崎の場合、海中の島でも河中の島でもなく、河口デルタにできた浮洲だったのかもしれない。

渡田

渡田は新田義貞ゆかりの里。古くは「亘田(わたりだ)」だった。新田義貞の家臣亘新左衛門早勝の旧領地なのでこの名があるという。伝説によれば、義貞が現在の埼玉県の入間田付近に出陣した時、夢に二人の童子が現れ「鎌倉幕府打倒の彼岸を達したくば、亘田の里に安置されている不動尊像に祈願をこめるがよい」と告げた。それ以来、義貞の守り本尊になったらしい。この不動尊像は現在渡田三丁目の成就院にまつられている。また、渡田三丁目にある新田神社は、亘が藤島の戦いに敗死した義貞の霊を祀った跡で、明治初年に神仏分離したものである。

「セメント通り地区」

東天閣焼肉レストラン

100種類を越す豊富なメニュー。美味しく安いおしゃしなお店。カップルから100名様のご宴会までOK。送迎バス有。

西の屋焼肉レストラン

創業1960年、味の老舗。川崎名物本格焼肉が堪能でき、なおかつ安い。送迎バス有。

慶焼苑炭火烧肉

備長炭で焼く肉は、なお一層の美味しさ。是非とも一度味わって、満足してください。

美星屋炭火烧肉

一度食べたならまた食べたくなる。お腹いっぱい大満足。こ来店お待ちしております。

ニュー桜苑浜町店焼肉

秘伝のタレと炭火で焼く上質のお肉の美味しさ。絶対納得の価格とお肉を是非「賞味ください」。

個室とカウンターの落ち着いたお店で、最上級のお肉と創作料理を是非「賞味ください」。

安寿焼肉

和牛肉の最高のお店です。

トラン炭火烧肉

良質のお肉を最大限にひきたす炭火。炭火烧肉を一度お試しください。ご予約承ります。

杉の家炭火烧肉

備長炭で焼く肉は、なお一層のおいしさ。是非とも一度味わって、満足してください。

翠琳焼肉

清潔な店内にはジャズが流れ、夏天眼慢の特選ハラミと歯しを求めて著名人や遠方者も「来店」。

京屋焼肉レストラン

当店では和牛専門店です。和牛カルビ ¥750からとりスナプルなお値段で「家族からカップルまで」利用いただける明るいお店です。

「大島地区」

壽寿焼肉

川崎に数ある焼肉店の中でも隠れ家のお店として知られるお店。言い……お肉をどうぞ。

陣屋焼肉の家

肉質はもちろん量・価格・味の良さ。又他店には無いメニューもあります。是非「賞味ください」ませ。

金泉苑焼肉

脂のつた最上級のハラミは、一度食べればクセになる。こ来店をお待ちしております。

大同苑焼肉

当店では、和牛特上ハラミを低価格で提供しております。又、こくのある本格的なカルビスープを是非お試しください。

たんぽぽお好み焼き

川崎には無かった美味しいお店ーお好み、もんじゃはもちろん、鉄板焼きで焼く肉はちよつとす「いいです」。

ニュー味源焼肉・中華

焼肉と中華両方食べたい欲張り名人にぴったりのお店。味もポリニュームも満

足！

山水苑焼肉・海鮮

「こが噂の山水苑です。本通りからちよつと離れた隠れた名店、六場の店。個室・宴会場・50席有。

川崎苑焼肉

創業30年本格的焼肉を味わえるお店。国内産の良質な肉をチユウ生真に他店では味わうことの出来ない牛肉、肉類のメニューもあります。

「藤崎・池上地区」

いぶにお好み焼き

素材の味を生かした家庭料理。和牛焼肉もおすすめてです。大小「宴会」こ家族連れで是非どうぞ。

びつくりやホルモン・焼肉

びつくりする美味しさ、びつくりするお値段。ホルモン¥800円「こ来店お待ちしております」。

泉苑焼肉

美味しいー安いーそしてどこか懐かしい味。家庭的な味でお客様をおもてなし致します。

桜木・池上・セメント通り・追分大島 近辺
おおひん地区
 歩いて楽しむ多文化共生

生活レベルでの共生を目指す街

「外国人の街」といって、横浜市の中華街や新宿区の大久保地区を思い出される方も多く、川崎市もそうなの？と意外に感じられる方も多いでしよう。確かに、川崎市には、中華街のように、同一国籍の人々が一箇所に密集して居住している地区、いわゆる「一目見て」「それ」とわかる外国人居住地区はありません。

そのかわりに、川崎市のおおひん地区では、いろいろな国籍や沖縄や東北など文化背景を持つ人が地区内に分散して生活しています。違う文化や習慣を持つ人が隣り合っていることはとても大変なことですが、日常の様々なことに向かい合って、生活レベルの共生を目指している地区です。

ハンゲル文字の躍る看板、民家の門柱に鎮座する狛犬、住来から聞こえてくる外国語、テーマパークのような派手さ、商業を前面に打ち出したわかりやすさはありませんが、地域に息づく、なにげない多文化共生を深しにみてみませんか？



みる



川崎市ふれあい館
 年齢・性別・国籍を超えて

地元の日本人と地域の外国人が様々な集まりを通じて共に楽しむための公民館。子供達がどうルームには、いろいろな国に言葉で書かれた「こんにちは」の文字が並び、学習探求、民族文化サークル、高齢者ふれあい事業など様々な活動をしている。韓国・朝鮮・ペルー・ブラジルなどに關する蔵書がそろった資料室もある。来館前には要予約。TEL 044-276-4000

「ミニユニティセンター」
 富川市との交流の品

韓国の芸術品に触れることができる穴場スポットが桜本商店街にある。これは川崎市が韓国の友好都市として交流を図っている富川市から交流の品として送られたもの。

「セメント通り」のゲート

産業道路から500M程北へ伸びる「セメント通り」のゲートには、コリアの民族舞踊がかたどられている。

浅見肉店 有限会社

焼肉の材料の総合商社「浅見」はとにかくお肉が新鮮で安い！是非一度、来

店ください。お肉のことならお任せください。

のんちゃんのみんち屋さん

食材は勿論、韓国シーツ石鍋、法外用異他豊富な品揃え。地方発送可。まずは「来店」を。

麻布食品韓国食品専門店

冠婚葬祭、パーティ料理承ります。地方発送、配達いたします。韓国食品専門店です。

カネダ食品

広々とした店内にはキムチを始め韓国食材がズラリ。冠婚葬祭料理、地方発送承ります。

七福神ならぬ九福神

桜本地区には、七福神ならぬ九福神がいる。この二つの福神様を訪ねてみよう。



情しる？情しない？
 姥ヶ森御手水池跡

「姥ヶ森町内会」の町内会館の隣には今も井天様をまつられ、姥ヶ森御手水池の跡と伝えられる井戸が守られている。そして「ミミ」は奇妙な民話が残されている。

その昔、稲毛神社の御神体をおびつていた姥母が、茶の木にぶつくて御神体の片目をぶつけてしまった。責任を辱した姥母が池に身を投じて、うそかまことかその池（現在の井戸）の思出は全部片目だそう。川崎はその時からお茶の木はいけなく、池を造ってはいけないと言われている。

食べる

追分まんじゅう

菓子店「多摩川」の追分まんじゅうは地元川崎で人気の一品。

東海道五十三次の宿場町、また弘法大師をまつる川崎大師の門前町の名物として旅人の疲れを癒していた茶店があったという。この「追分まんじゅう」ほそれをイメージして昭和三十年に生まれた。

川崎沖縄県人会館一階
 沖縄料理店

県人会が中心となって建てた「川崎沖縄労働文化会館」一階の沖縄物産店と沖縄料理のお店は、手軽に沖縄フードに触れられる絶好のロケーションだ。県人会の長老たちの溜まり場ともなっているのので、うまく出会えれば、沖縄の話で盛り上げられるかも。月曜日休十時～一九時
 TEL 044-276-4000

先に「昭和」といううちに真っ先に覚えまし
た。

出来野

出来野 もと大師河原が
属していたこの地の由来は
はっきりしないが、古きに
よれば、陸地が海上に突き

出たところなので「出来野」となつてられた
といひます。そして長十郎梨のふるさと
として知られています。この梨は当麻辰次郎
さんという人が明治中期に改良したもので
すが、大平、早生ワカ、幸蔵などがつきつき
できました。梨だけでなくモモ、ぶどう、
イチジクも栽培されたそうです。

殿町

殿町 その昔上杉憲章の館があ
つたためについた地名です。梨が
広く栽培されていきました。

学んでみよう



川崎大師観光ボランティア

川崎大師の観光情報をボランティアの方
が丁寧に教えてくれます。事前予約をFA
Xにて受け付けています。川崎大師をより
よく知りたい方は「かわさき大師観光ガイ
ドの会044-221-9117まで」。

大師河原の酒合戦

江戸初期、大師河原の名主の池上太郎右
衛門半広とその一族4名(西軍)が江戸の
儒学者・文木春朝(東軍)とその仲間19名で
壮烈な酒飲み合戦を繰り広げたのがその
由来です。「酒」の字が「さんずい」と「り」
からできているから「水鳥」という名前のま

つりになりました。6時間にわたる激闘の
後、西軍が敗れ、東軍に軍配が上がったとい
われているが、西軍が東軍の侍参した大杯
の酒を一気に飲み干して和睡となったとの
ことです。

塩とけ地蔵

塩浜で取れた塩を運んでいた馬子が隠王
寺の前を通るたびに、女房にできたはれも
のが治るようと、お地蔵さんに塩をかけ
たと「ろすつかりなおつてしまい、それが村
中に広がったそうです。

あるいは親孝行な男が毎日塩浜で取れ
る塩を運ぶ際に母親にできたはれものを
治してもらえようとお地蔵さんに塩をか
けたところすつかりなおつてしまい、それが
村中に広がったという言い伝えがありま
す。

長十郎梨のふるさと

正岡子規が「多摩川を 汽車で渡るや梨
の花」とよんだように江戸時代から川崎大
師のなし作りは有名であった。戦後秋の味
覚として日本全国の食卓を飾った長十郎梨
はこの地で生まれ、今も市の北西部で栽培
される多摩川梨に受け継がれています。

京急発祥の地

もともと京浜急行発祥は大師縁でした。
六郷橋と大師停留所間に大師電気鉄道が
開通したのは明治28年正月。今日と名古
屋について東日本最初の電車でした。大師
線は運行距離片道二キロで現在の専用軌道
に変更される昭和3年までの約30年間路
面電車として大師新道を走っていました。

それ以前は大師に行く多くの人たちが徒歩
か人力車を使っていました。開業してから
乗客は急増し、開業して10カ月後には複線
化されました。

海苔の養殖

実は全国に誇った大師海苔です。川崎の
海苔は「淡草海苔」として全国で一位二位
を争う高値で取引されるほどでした。川崎
の海はかつては多摩川の栄養分を豊富に含
んだ真水が混ざることで非常に良質の
海苔が出来たそうです。現在では川崎の歴
史ある産業を再確認しようというので、
殿町小学校(展示品は市の産業遺産に登録
されています)や若宮八幡宮、川崎マリエン
などで乗り養殖で使われた道具が資料と
して収集されています。海苔作りの体験も
行なわれています。

数々の産業遺産

川崎市産業遺産ホームページには川崎
市全体の産業遺産が登録されています。
「味の素」NKK京浜製作所「殿町小学校」
「京浜急行発祥地」など大師周辺の産業遺
産は充実しています。

いろは歌

「いろはにほへと ちりぬるを わがよ
たれそ つねならむ うすのおくやま
け ぶこえて あさきゆめみし 玉ひえず」を
いうおなじみのいろは歌は弘法大師が考案
したといわれています。川崎大師の境内の
中に「いろは歌徳碑」のなかにいろは歌が
残されています。

川崎大師地区

非日常への招待
川崎宿の繁栄はここから始まりました。

誰もが知れる地名、でもその由来を紐解くと新たな発見もたくさんあります。そんな土地のいわれを訪ねてみました

川崎といえば、川崎大師と答える人はたくさんいます。そもそも「大師」のいわれは幾つかの説があります。

①音称名寺というお寺が、故あって真言宗を一向宗にしたときの話に由来します。改宗の際に弘法大師の像を川に流したところ、「もつたいな」と土地の人々が拾い上げ、おまつりし、もとの平間の地名をとって平原寺と名づけました。(新編武蔵風土記稿)

②無実の罪で屋敷の圍を迫られた平間兼兼がある夜夢枕に立った構想のお告げにより、海中から弘法大師像を引き上げて海辺に小庵を建てて祀った。その後高野山の高僧尊賢上人が諸国遊行の途中に立ち寄りこの尊さと見つかつた由来の不思議さから兼兼と力をあわせて寺を建立した。(川崎宿街道のあしおとから)

そのほかにもいわれはあるようです。時の将軍一代理川家斉の公式参拝で江戸の末期になると「利益」が評判になり、江戸市中や近在から多くの参詣人が押し寄せ、門前町として発展し、現在の「厄除け大師」として全国的に有名になりました。お正月には日本三本の参詣客を誇る、有名な川崎大師ですが、お大師様だけでなく、近くに「もちよつ」といって「もちよつ」がたくさんあります。

みる



川崎大師 やつぱり最初はここから

江戸時代から厄除け大師として知られ、将軍や江戸時代庶民の信仰を集めた川崎大師は全国的に知られています。初詣、毎月の日曜日(20日・27日)や五月の薪能、七月の風鈴市等の恒例行事も多く、賑わいを見せています。

境内には歴史を物語る石造物が数多く残っています。「いろは歌」は弘法大師がつくたといわれています。川崎大師の境内の中に「いろは歌燈籠碑」があります。

濱秀園 国内最大級の中国式庭園

悠久な歴史と伝統に育まれたすばらしい庭園です。中国の庭園です。

若宮八幡宮・金山神社 子授かり・安産で有名

若宮八幡宮金山神社で4月第一土日に開催される「かなまら祭」。江戸時代、川崎宿の女性たちが下の病気の除けを願ってはじめた祭りですが現在では子授かり、安産などのお参りが多く国際的にも人気です。「神体は男性のシンボルです。近年はエイズ除けとしても有名ですが、もともとは鍛冶屋の神様です。」

殿町野鳥の観測地

多摩川河口にむかつて桜の木が植えられている土手を歩けば水鳥が飛来する足の茂

る干潟が広がります。サギ類が飛来する土手です。

食へる

久寿餅

大師の土産物といえば、昔は乾し海苔、久寿餅、貝類、羊羹、貝細工などでしたが、海産物は減っています。今も昔も有名なのは久寿餅で、川崎大師の門前町に登場したのは今から160年以上前の天保のころだといわれています。大師河原村の久兵衛さんがめれてしまった小麦粉をたるに入れて水に溶いて放置していたら、次の年に樽の底で酸化したでんぷんを発見、これを加工して蒸しあげたところ風変わりなもちが出来ました。それがあまりにおいしかったので、久兵衛さんの「久」と長寿の「寿」を取って久寿餅となりました。大師といえなくすもち、もちの弾力とコシ、黒蜜ときな粉が、かもし出す味が評判です。

はまぐり定食

「恵の本」で食べられます。大体ランチで3000円くらいです。この辺で蛤が昔は取れたというのが意外です。

あそぶ

大師公園

川崎大師に隣接された水と緑の公園です。広い敷地に噴水広場、人工川が広がります。野球場テニス場プールがあります。2

月には子供のためのべか船をイメージした遊具が設置されました。べか船とは1960年代半ば頃まで大師地区の海でよく見られた遊板でつくられたのり取り船のことです。

大師駅前の商店街

門前町の雰囲気を感じ出した「表参道」はもちろんのこと、「りやく通り」が目印のアーケードをくぐると地元住民の生活感あふれた大師駅前商業会、川中島商店会があります。表参道をまっすくいくと下町感あふれる地元密着形商店街が続いています。

地名よもやま

大師の面白地名探検隊



塩浜

塩浜 昔から生活必需品だった「塩」。江戸時代には川崎領のうち海岸内海岸の諸村で製塩していた。その味は「上品にて蒲州赤穂の産に劣らず」といわれ川崎の特産物のひとつだったそうです。その製塩していた浜辺が「塩浜」といわれている。もともとこの地方の塩の歴史としては、江戸開府とともに、家康が伊勢(三重)の藤堂領から塩吹き、の熟練者を集団移民させて、この地に塩焼き場を作ったと伝わっている。

昭和

昭和 元等のまち、それが昭和です。津波がくれば飢饉、六郷土手が崩れれば出水といった土地にも、大正末期に耕地整理や通路づくりが行なわれてそのうえ住宅地やマーケットなどができました。そこで土地の人たちが相談して、改元したときに真っ

おいで
おいで松

おいでおいで松の物語には二つの説がある。一つは川崎区川中島に朝鮮池とい

う池のほとりに一本の松があった。この池に一人で魚を捕りにいくとこの松に「おいでおいで」と招かれ池にはまって死んでしまうという言い伝え。もう一つは昔、川崎区富士見にあった富士紡工場近くの池の畔に一本の松があり、夜中にそこを通ると松が「おいでおいで」と招いた。これは池に身を投じた工場の女工が呼んでいると語られていた。

佐々木様

佐々木様 川崎区砂子に善提寺墓地内に佐々木塚なるものがあつたそうです。現

在、そこにある榎杏樹は虫歯の痛む時は楊枝をその樹に供えたと御利益があると言われている。歯が痛くなつたときは「ワイワイ節者にくよりますは」この佐々木様に！

る。川崎駅前にはぎっしりとした店も増えているが、昔ながらの働く人たちのために安く、量が多い大衆食堂や、居酒屋・小料理屋も多く残り、味わい深い町並みを形成している。また川崎に多く在住する沖縄出身者や在日韓国の方々が、地元の味を再現するお店を数多く開き、川崎での飲食の多様性を高めている。その他、駅前大規模店や地下街・商業施設のレストランも多数有り、食へることに關してはどのようなニーズにも対応できるのではないが。

満龍中華料理

昭和25年から続く、中華料理屋。東田の本店と砂子の銀座街店があり、本店が本格中華料理屋の雰囲気なのに対し、銀座街店は庶民的中華料理屋さんの様相。どちらも安く美味しく、中華料理が堪能できる。

シーハーズ洋食和食店

元WBAチャンピオンの畑山さんがオープンしたお店。全部で3店舗あり、そのうち2店は洋食屋、1店は和食屋になっている。どちらもとにかくを使った料理が多く、ヘルシーかつ低カロリー。畑山さんのベルトやシューズ、グローブなどが展示してある。

LACITTA DE LA

イタリアの丘の町をイメージした建物に、カフェ・ファーストフード・バー・レストランなど様々なジャンルの店が集結。川崎でできるイタリア体験。

居酒屋コリーヤン韓国料理

川崎駅そばにある韓国料理屋さん。狭い路地の間にあり、見つけにくいかもしれないが、本場においしい韓国料理。

沖縄料理 四つ竹・がちま屋 波乃上・琉球・めちはな・金城

沖縄と川崎の縁は深く、沖縄から京浜工場地帯へ働きにきた人の多くが、そのまま川崎に暮らした。那覇と川崎は国内友好自治体であり、また沖縄芸能は川崎市が無形文化財に指定されている。はるか沖縄まで行かずに川崎で沖縄料理を堪能できる。

プラス・パミートラジール料理

ブラジル出身のジャーガーも来店する。本場ブラジルの味。スタッフ全員がブラジル人であり、レストランだけでなく、輸入食材・CD・雑誌も扱っている。

アルコイリス・インテイライミ ベルー料理

川崎駅西口に店舗を構えるヘルシー料理の店。ヘルシー人が多く訪れるのは、ベルー本場の味だから。

あそぶ ☆

LACITTA DE LA

最近増えた巨大商業施設とは一味違い、イタリアの丘の町をイメージした建物自体に、遊びの要素があるところ。

西口文化ホール(仮称)

川崎駅西口にクラシック音楽を聞ける施設ができ、東京交響楽団とフリンチャイズ契約を、演奏がなされている。

CLAB CITTA

川崎駅東口には、ロックやポップなどのニューミュージックを中心とした巨大ライブハウスがあり、かなり有名な海外アーティストもライブを実施している。

川崎競輪・川崎競馬場・パチンコなど

最近、日本でもカジノをだそう、という言葉がよく聞かれるが、競馬や競輪そして多数のパチンコ・パチスロ店が集積する川崎は、カジノといってもジャパニーズ・ラスベガスといっても良いのではないが、あまり深入りしては行けないが、競馬・競輪の本物の迫力や、趣向を凝らしたパチンコ・パチスロ店の雰囲気は一見の価値あり。

地名よもやま

川崎駅前の面白地名探検隊



砂子

砂子：この砂子という地名の由来は、その音韻師が海岸で一体の栗飾仏を拾いあげ、砂の上に安置したところから付けられた地名である。また、この地域は佐藤之助の詩の愛社社に集まる文学者のま

ちとして多くの逸話を生み出している。

堀之内

堀之内：川崎一の歓楽街であるが、大正時代半ばから商店街として発展し、昭和初期には「堀之内銀座」と呼ばれる川崎最大の繁華街でもあった。地名の由来は平安時代末期に河崎冠者基家の屋敷地周辺を堀ノ内と呼んだのであろうと言われている。

万年横丁

万年横丁：江戸時代に東海道川崎宿で栄えた旅館屋「万年屋」は「東海道中膝栗毛」など多くの史料で紹介されている。この万年屋は川崎宿の入口に位置されており、その脇には川崎大師へと通じる土手道が通っていたことから言われたものである。この横丁で発展した奈良茶飯は川崎宿の名物。大正・昭和の時代には職人の町としても有名であった。

学んでみよう



川崎区には、いくつかの言い伝えが存在している。

一本榎

一本榎 神木と崇められていた榎の木を切り落とした際、祭礼の大神輿が海(池)に沈んでしまったという言い伝え。地名はこの榎の木からつけられた。

川崎駅前地区

いろいろな「サンライズ」が眠っているまち

今風の顔と由緒ある顔の二面性

川崎という地域の玄関口であるJR川崎駅周辺地区は、時代のトレンドに合った現代風の集客施設が集積され、多種多様なイベントが実施されているエリアというイメージを人々に強く印象づけられている。親て、聞いて、食べて楽しむための要素が前面に押し出されていることがまちの個性と思われがち。

しかし、この地域にはもう一つの顔がある。それは歴史あるまちという顔だ。東京から大規模でつながっている国道15号は、古くは江戸時代に整備された五疊七道の一つである東海道の宿場町であった川崎宿があり、街道を行き交う人々で活気に溢れていた。

また、多くの外国人居住者がまちで生活していることもあり、南米料理など異国の食文化を堪能できるまちでもある。

一つはたのびの良いものと現代社会のニーズに合ったものを兼ね備え、さまざまな時代の流れを感じることが出来る川崎周辺地区の持つ顔の二面性をぜひ堪能してみたい。

みる



明治製糖赤レンガ講座 工業化の一步

多摩川のリバーサイドに工業都市川崎の第一歩を知ることが出来るスポットがある。工業化の進んだ明治時代、どの企業よりも先駆けて明治製糖が工場を作った場所。これをきっかけに工業化の発展が進んだ歴史あるところ。たまには足を止めて歴史に触れるひとときを感じてみましょう。

川崎能楽堂 伝統文化の遭遇

わが国の歴史ある古典劇である能楽。この能楽専用の文化施設であり、歴史があり伝統文化のすばらしさを再認識できる場所。能に触れ、ゆるやかな時の流れに浸ってみましょう。

阿波踊り 踊る醍醐味！活気を共有

JR川崎駅東口周辺が運動場にあふれ、熱気が立ちこめるダンス・タイムショーのステージと化す。

松尾芭蕉句碑 川崎版「奥の細道」

かの有名な俳人松尾芭蕉が川崎宿に立ち寄り、弟子達との別れを惜しみ、「妻の穂をたよりにつかむ別れかな」の句を残したといわれている句碑があった。この記念を記し、

建てられた句碑。

川崎ハロウィン 川崎にアメリカの風が

いつもとは違う自分に、一人ではなかなか勇氣がいるけど、みんなで変身すれば怖いものはない。仮装をして駅前周辺をパレード…変身願望のある方には必見のイベント。

佐藤惣之助の碑 歌謡曲発展の貢献者

昔なつかしのあのメロディ。「人生劇場」など多くの歌謡曲を生み出した作詞家への哀悼をこめて建てられた記念碑。すばらしい楽曲はいつの時代にも心に響く

FANTASYかわさき ひかりに包まれたまち

冬の夜空に光輝くイルミネーション。駅周辺は光の世界に彩られる。冬の川崎を演出する「ひかり」を体験しましょう。

LACITTA DELLA 川崎のアミューズメントエリア

聴いて楽しい、聞いて楽しい。そんな気分が味わえる場所。

川崎山王祭 神輿がまちに元気を

夏の風物詩。まちを神輿がワッショイワッショイと観る人みんなに元気を与える。

砂子の里資料館 川崎宿を知る機会

東海道川崎宿を知ることが出来る。江戸時代の伝統文化を体験し、歴史を学んでみよう。

六郷橋 東京と川崎を結ぶバイパス

わが国の正月恒例行事である霜降駅伝。寒空の中、橋の上を駆け抜けるランナーをこの橋は見守っている。しかし、この橋は寧ろ川との間の歴史が刻まれている。

川崎球場 スポーツファンの聖地

昔、プロ野球のロッテオリオンズ(現千葉ロッテマリーンズ)のフランチャイズとして多くのファンに愛された川崎におけるプロ野球の聖地。2000年にスタンド部分が解体されたが、グラウンド部分は今も一般利用などで活用されている。

がっかり橋 競馬ファンは一度は経験するかも

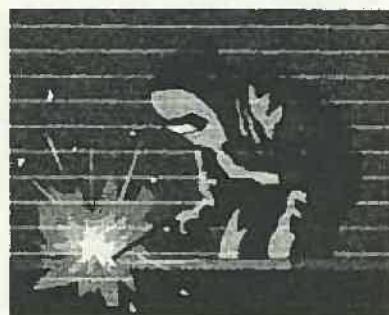
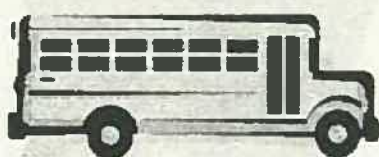
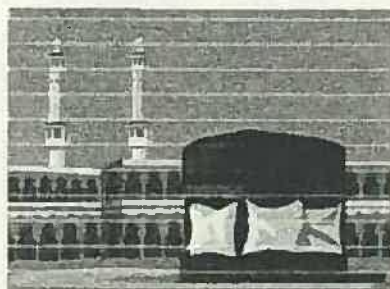
正式名称は「かわさきハローブリッジ」。希望を胸に抱き川崎競馬に足を運んだ人たちが夢破れ、うつむき加減で足早に要路を急ぐ人並みが橋の下を通る姿から付けられたもの。

食べる

最近はこの駅に行っても大型チェーン店が増え、個性が埋没している印象を受け

～川崎区を見尽くし、食べつくし、遊びつくし、学びつくす!～

川崎区まちあるきガイド



あんなところ、こんなところ、知っているようで知らない
川崎区。研究員が独断と偏見と思い入れで選んでいます。

～行ったことのない人は行きたくなる、
好きな人はもっと好きになる～

生田緑地の新しい 楽しみ方ガイド

取材班が歩いて、撮って、話して、発見してきた自信作よ。



さあ、行ってみよう！

生田緑地は、単なる「自然がいっぱい」の公園ではありません。あなたの知らない魅力が、たくさん隠されています。

このガイドをみた方は、もっともっと楽しめます。どうぞあなたのナンバー1を見つけにお出かけください。友達や親戚も招待して、川崎のすばらしさを広めよう!!

わたしたち一人一人が川崎のイメージアップ大使です。

生田緑地の開花カレンダー

花の名前	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
------	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----



梅



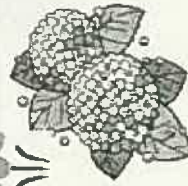
桜



つつじ



しょうぶ



あじさい

新緑の時期

紅葉の時期



家族でのんびり!

子ども連れコース

こどもは元気に走り回って遊びたい。
ママパパは、のんびり過ごしたい。
みんなの希望をかなえる。

王道コース



☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆

まず、生田緑地で一番高いところにある
枳形山広場に行こう。ここは、木でできた
アスレチックがあるので喜びことまちがいに
なし。広い広場なので鬼ごっこもできる。
転んでも土だから大丈夫。どろんこになっ
て遊ぼう。展望台では手すりの置物に注目。
自分の干支を探そう。

噴水広場に行くと、突然大きくなる噴水
にびっくり。中に魚がいるか見てみよう。
危ないから中には入らないでね。冬は氷が
張るよ。ここで、お弁当を広げよう。



枳形山広場は桜の名所。春はたくさんのお花見客でにぎわう。トイレ・飲み物の自動販売機・利がそろっていて便利。

すぐ近くにはSLと客車がある。客車は中まで入れる。ここで記念写真!

青少年科学館に入ると、いきなりアケボノ象がお出迎え。引き出しの中を開けるとまたびっくり。動物の標本がある。楽しみながら多摩の自然を学べる施設になっている。

デフレ時代はこれだ!

ゼロ円コース

無料だからといって侮ることなかれ。生田緑地を楽しむためにお金は必要ないのです。行き慣れた人のつつの楽しみ方。



☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆

野鳥の森は、入ったとたんに静寂に包まれる。こんなに都心近くで森林浴ができるなんて素晴らしい。つつじ山は、日当たりが良くひなたぼっこにもおすすめ。出入口から遠いため人も少ない?となりのゴルフ場を覗くことができる。いいコースだなあ。梅園は40種類の梅がある(はず・・・)。お気に入りの梅を探してみよう。

ホテルの里は初夏にホテルが見れる。数が少ないので見れたらラッキー。今後の整備が楽しみなところ。

おすすめコース

東門→野鳥の森→つつじ広場→梅園
→ホテルの里→枳形山広場→古墳群

枳形山広場は、お弁当持参で。飲み物の自動販売機もあるよ。展望台からの眺めは多摩川をはじめ都心も一望できる。夜も入れる。無料だけど、すばらしい眺め。パノラマ写真を撮りたくなる。長者穴横穴古墳は、意外な穴場。知らない人が多いのでは。いったい何個の古墳があるんだろう。

取材に行った日は梅が満開でした。友達同士やご夫婦が思い思いに散歩を楽しんでいました。



〇〇好きにはたまらない!

マニアコース

地元の方ならだれでも一度は訪れたことのある生田緑地。でも、意外と知られていない穴場があるのです。知りたい?では、行ってみよう!



☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆

くらやみ坂は、暗くて闇のようだという事で命名されたが、近頃はすっかり明るくなった。枳形山広場の石碑の裏を見たことある人いる?見たことある人はかなりマニア。展望台手すりの干支の置物。かわいいけどなんで干支なのか不思議。県の本見本園は、各都道府県の本が植えられているらしいが放置状態。解説板に根性がらみ(とにかく見てみて!)のコメントが多いのが妙に笑える。地層見学。解説もあるので楽しめる。三色アイス軽石層て何だろう?青少年科学館

おすすめコース

くらやみ坂→枳形山広場石碑・展望台手すり→地層見学→県の本見本園→飯室山展望台→古墳群

で教えてもらおう。飯室山展望台は、枳形山展望台の影のような存在。山の中腹にあり、まわりを木で覆われてほとんど何も見えない。しかも、斜めに傾いている。なんでここに作ったの?でも、ひっそり、のんびりとおしゃべりするにはいいかも。このあたりは、枯葉が多いので足首くらいまで埋まりながら歩くのも楽しい。

古墳群は、大きな穴だけでなく、



枳形山もいけど時には飯室山で静かな時間を過ごしてみよう

小さい穴がたくさんある。いくつあるか数え切れたらあなたもマニア入り。

仕事に疲れたあなたに!

癒し系コース

勉強に、仕事に、人間関係に疲れた...というあなたにおすすめ。自然のエネルギーを存分にもらって癒されよう。



☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆

都心にはない、自然、すがすがしい空気の中でのんびり過ごそう。木の匂い、鳥のさえずり、太陽の光、癒されます。駅から遠いな~という方はバスもあります。駐車場もあります。枳形山展望台では何も考えないでぼーっとしよう。何もしない贅沢がここにあります。メタセコイヤ林、すっきりとしたその姿に思わずため息。ここからの眺めが一番好きだという地元の方も多し。体の中から癒してくれるそば-



おすすめコース

お昼頃バスで西門→展望台→メタセコイヤ林→日本民家園(そば)→プラネタリウム→駅周辺で夕ご飯

日本民家園でおそばをいただく。ここは信州白川郷の合掌造りの古民家内にお店があるという全国でも珍しいところ。そばは、信州戸隠からそば粉を取り寄せて打ち、3種類のかつおぶしを絶妙にあわせてただしでお汁を作っておりご主人のこだわりが感じられる。おいしい~!! 囲炉裏を囲んでいると懐かしい香りがして、ほっとする。木の床の座り心地もいい。自然に疲れがとれてみんな笑顔になる。暑い季節にはざるそばや冷やしとろろそばがおすすめ。外国からのお客様にもおすすめしたい。プラネタリウムでは暗闇に輝く星を見よう。気持ちよくてねっちゃうかも(解説も聞いてね!)

生田緑地の魅力を描き出す！

写真・絵コース

生田緑地は、言わずと知れたビューポイントの名所。中でもわたしたちの一押しコースをご案内します。



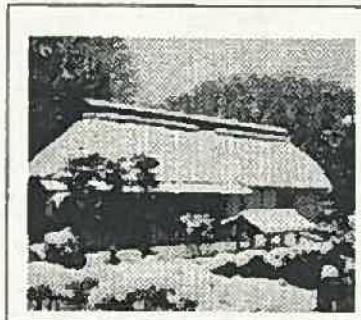
☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆

枳形山広場の展望台から、多摩区、多摩川、都心のパノラマを撮る。天気の良い日は本当に眺めが良い。日本民家園は、撮影の名所。特に雪の日は、閉園日でも「開園してほしい」、「雪かきをしないで」、「足跡をつけないで」、など写真愛好家から熱いラブコールがあるそう。噴水広場からメタセコイヤ林方面は、奥行きのある空間の中に細くて高いメタセコイヤの木が並んでおり、遠くに奥の池、岡本太郎美術館が

おすすめコース

東門→枳形山広場→日本民家園→噴水広場→野鳥の森→梅園→メタセコイヤ林→岡本太郎美術館→西門からバス

ちらりと覗く。だれもが詩人になってしまう瞬間だ。最後は、岡本太郎美術館で芸術鑑賞。鬼才といわれる岡本太郎画伯のエネルギーに圧倒される。美術館内部は、作品の配置に工夫をこらしており、楽しめる。



雪が降る中、民家園に行った。雪で真っ白に覆われた民家はむしろ暖かそう。斜めになった屋根や雪囲いもその役割を果たしていた。年に数回のチャンスをお見逃しなく。

日本を見る、体験する！

日本情緒たっぷりコース

昔からの日本の良さをじっくり味わおう。生田緑地は自然だけでなく文化施設もあるのです♪



☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆

伝統工芸館で藍染めを体験してみよう。藍の匂いは少くせがあるが、慣れたらいい匂いだ。作品はおみやげにしよう。次に、日本民家園を見学。18建の本物の古民家を移設した全国でも有数の施設だ。野外博物館なので迫力がある。一軒一軒造りが違い、中に入ると夏は涼しく、冬は暖かい。受付で販売している「絵はがき」(6枚セットで500円)は、民家園のベストショットを集めた力作。四季折々の民家の風景を楽しむことができる。歩いていると、囲炉裏に火を入れている民家がある。炉端の会のメンバーが民家を

おすすめコース

西門→伝統工芸館(藍染め体験)→日本民家園(能などの舞台の鑑賞・そば)→東門

虫食いから守り、民家に生活の火を灯しているのだ。「どうぞ上がってゆっくりしてってね」という言葉に誘われて囲炉裏で暖まる。木が燃えるパチパチという音を聴き、お湯が沸いている鍋の湯気を眺めながら、炉端の会のメンバーと話することができる。「火を入れてもらって人が集まって民家も嬉しいでしょうね」と話しかけたら「わたしたちの方が楽しませてもらっています」とおっしゃっていた。民家を愛して支える方々の力はとても大きいのだ。

民家園の床土公
開の様子。順香に
いくつかの民家
で行われる。息を
吹き込まれた民
家の囲炉裏端で
暖まろう。



芸術家気分で!

1日たっぷり美術館コース

ゆっくりと芸術・美術の世界に浸りたい。にわか「芸術家」の気分を味わいたい。そんなあなたには、いわずと知れた岡本太郎美術館。

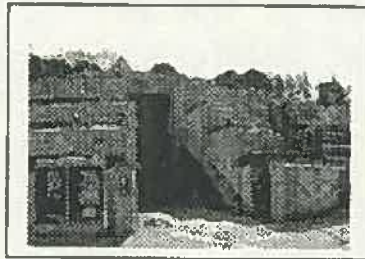


☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆
美術館の開館は朝9時30分から。真っ先に美術館に行こう(朝は空いてるよ)。午前中一杯、岡本太郎の世界に浸る。「堅苦しいのは苦手」という方でも楽しめるように、太郎作品のエネルギーを体で感じられるような工夫があっておもしろい。すっかり夢うつつになったら、カフェテリアのオープンカフェで日光を浴びて優雅にお食事。母の塔をのんびり眺めて一休み。午後からは創作アトリエでの企画展イベントのワーク

おすすめコース

東門一岡本太郎美術館(→カフェテリアで昼食→美術館内創作アトリエ)

ショップに参加しよう。ワークショップの開催回数は少ないので、参加できるチャンスがあったら是非チャレンジしたい。創作活動で気分はずっぴり芸術家。お帰りには農林水産大臣賞を受賞した銘菓『TAROの夢最中』をお土産に。唐辛子がピリっときいていて、甘いながらもさわやかなおいしさだ。「ごま」と「小倉」の2種類がある。「ごま」の方が辛いような気がするけど、いかがでしょうか?お試しあれ。



美術館入口。「自然と融合した美術館」だけあって公園スペースや湧水を利用した滝・池もある。岡本太郎ワールドへようこそ。

夏は夜!

星とホタルのファンタジーコース

生田緑地の夜はロマンチック。緑の中に光輝く星とホタル。忘れられない夜になるでしょう。

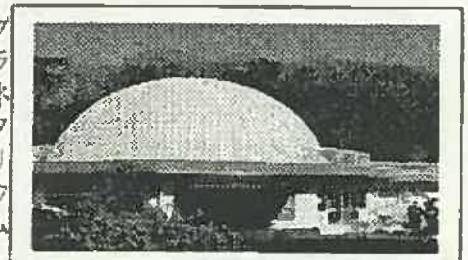


☆☆☆☆☆ 歩き方 ☆☆☆☆☆
まず青少年科学館のプラネタリウムで予習。「星ってこんなにあったんだ!」と感心してしまう。藍染めの浴衣に着替えて夕涼みのスタート。将来は、伝統工芸館で浴衣のレンタルサービスをしてくれるともっと楽しめそう。次は民家園へ。夕暮れに見る民家はいつもと違う雰囲気。懐かしくてほっとする感じがいいね。昔の人もこんなふうに夕涼みをしたのかしら...

おすすめコース

午後プラネタリウム→伝統工芸館で浴衣→民家園で夕涼み→ホタル観察→星観察

ホタルの里へ向かう。すでに日は落ちて夕闇が広がる。人里離れた山の中とも思えるくらい静かだ。ホタルへの期待は高まるばかり。ほのかな自然の光を楽しもう。ホタルを見られなくても、夜空を眺めれば、満天の星がきらめいている。青少年科学館のツアーに参加すると解説も聴ける。



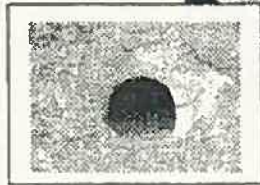
プラネタリウムの大きなドーム。一歩入ればロマンチックな星の世界が広がる。

生田緑地おすすめコース

小田急向ヶ丘遊園駅

- 子ども連れコース
- ゼロ円コース
- マニアコース
- 癒し系コース
- 写真・絵コース
- 日本情緒たっぷりコース
- 星空ファンタジーコース

！ 枳形山展望台
からの眺め

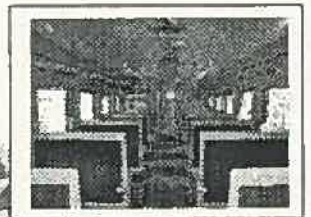


長者穴横穴古墳

！ 地層解説



！ 民家内のそば屋



！ 客車



！ ゴルフ場

西門

伝統工芸館

岡本太郎美術館

メタセコイヤ林

客車

噴水広場

SL

青少年科学館

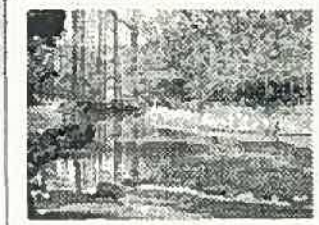
泉の木見本園

梅園

つつじ広場



！ 青少年科学館



！ 奥の池



！ 梅園



！ 日本民家園



！ SL



！ 岡本太郎美術館



！ メタセコイヤ林



！ 噴水広場